

「令和6年度いわて新農業人チャレンジファーム第18回研修を開催しました！」

第18回の研修は、令和6年10月19日（土）に、盛岡市猪去の株式会社いわて若江農園様で、現地研修を行いました。

いわて若江農園様は、9棟・およそ70aのハウスで、環境制御装置などを取り入れながら、大玉・中玉・ミニの各種トマトを周年で栽培しております。

研修の初めに、トマト栽培のハウス周辺をご案内いただきました。多くの受講生は栽培規模の大きさに驚いているようでした。

次に事務所内に移動し、若江代表取締役から、脱サラし、Uターン就農した経緯、法人化や環境制御装置を導入したタイミングなどをじっくりと伺いました。特に、就農時に苦労しながら農地を確保したこと、制度資金を前向きに使用すること、5か年計画を立てたうえで経営を進めていくこと、など、受講生の気になってい

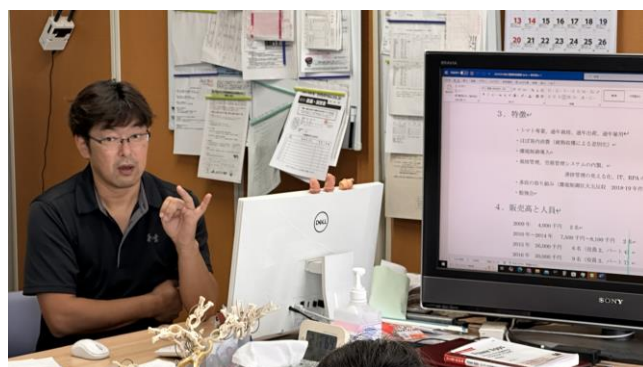
ることについて、たくさんのお話をいただきました。また、若江代表取締役は、県内外の農家などに出向き、現在もトマトの栽培技術について学んでいることや、昨今の栽培資材高騰などにより、計画が中断しているところもあるが、将来に向けて若江農園をどのように経営していくかなど、お話の端々にトマト栽培や経営への情熱が感じられました。

質疑応答では、若江代表取締役に、研修時間いっぱいまで受講生からの質問に回答いただき、受講生はここで多くのことを吸収できたのではないのでしょうか。

次回研修は、10月25日（金）、26日（土）に、雫石町南畑のコテージむらにおいて、秋じまいと農具の手入れについての講義と、実習では、大玉トマトの片付け作業、はくさいとねぎの収穫などを行う予定です。



若江代表取締役から就農の経緯などを聞く受講生



経営概況について説明する若江代表取締役



若江農園のハウス内で栽培されているトマト



ハウスの設備について説明する若江代表取締役